

日本と中国の庭園の空間構成に関する比較研究

-江戸時代の京都庭園と明後期の蘇州庭園を事例として

研究代表者 方 愷
(理工学術院総合研究所 次席研究員)

1. 研究課題

これまでの庭園に関する研究は、すでに文化と審美の角度から空間関係の検討に進んでいる。日中造園関係の研究は、両者を継承するスタイルの背景に置いて検討していくべきである。よって、日中の造園観念の生成と変遷、吸収と改善、及び継承と発展は本研究が注目する核心問題である。

本研究では新しい構造主義の研究方法を導入し、同じ時代の京都と蘇州の典型的な庭園を例として、庭園の形態と構造面の研究を展開し、日中庭園の同じ時期における互いの影響関係を検討する。

2. 主な研究成果

2.1 调研基础资料的数据库化

2021年度は、日本と中国の庭園に対して、時代別にさまざまな調査や資料収集をした。

1) 先ず、日本と中国の庭園の構造の特徴を全体的に把握するために、両国の庭園に対して広く一般的な調査を行なった。日本庭園に関して、全国約30箇所の庭園で現地調査を行った。その結果、研究対象の範囲を、京都の庭園から、滋賀県と奈良県など特定の畿内の庭園までに拡大することにした。それにより、室町時代と桃山時代の庭園数を増やししながら、庭園の時代と空間における分布のバランスを取るようにした。したがって、これからは京都を含めて畿内の約40箇所の庭園を研究対象として、現場で写真、実測図及び周辺地域の自然環境など情報を含めるデータを収集した上で、基本的なデータの整理と製表をした。

一方、中国の同時期の庭園に対する写真や現場調査に関する資料の収集に関して、コロナ禍で出入国制限のため、中国に滞在中の二人の博士が代理で蘇州市内における一部の庭園に対してデータの収集を行なった。それとともに、本人が修士の時、中国の主要都市における庭園に対して広く研究と現場調査を行なったため、十分な資料が残されている。

2.2 文献资料的数据化

次は、文献と画像資料の収集、整理及びデータベース化をした。

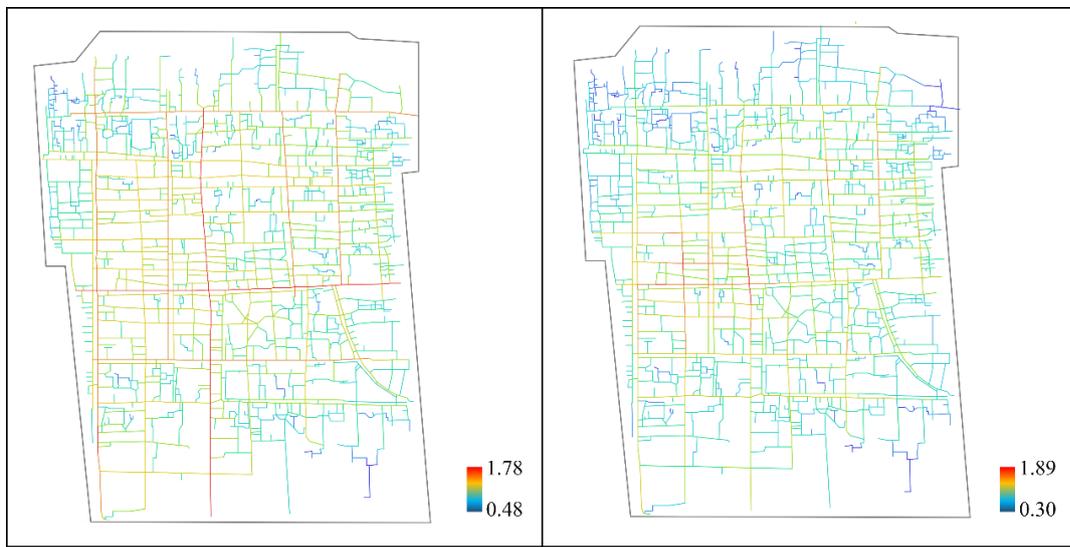
それは主に、古代の造園に関する文献及び資料の整理、古代の庭園に関する図絵、山水画史に関する文献という3つの部分に分けて関連する資料の収集、整理及び製表をした。

2.3 蘇州市における庭園配置から見る「隠者文化」影響下での都市形態

明代から清代の初めにかけての蘇州市とその都市庭園を例として、「市に隠居」を手がかりとして、明代後の都市における「隠者文化」の変容の具体的表現に焦点を当てていた。まず、「市に隠居」

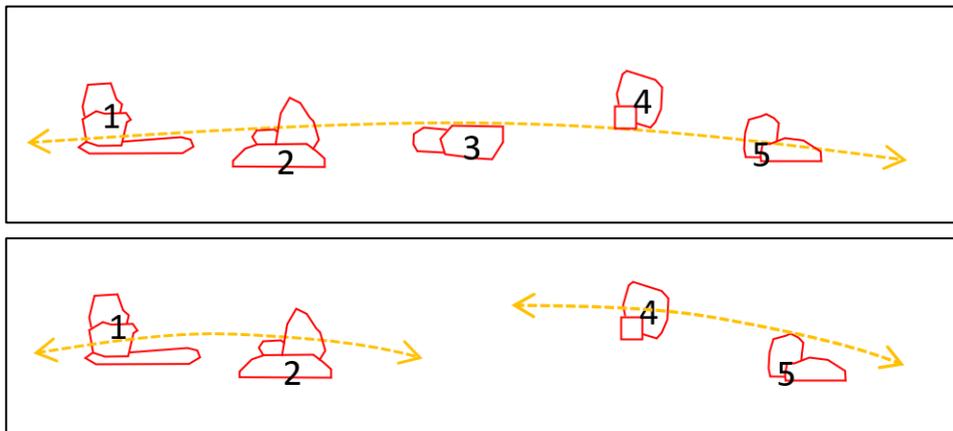
の概念とその影響下での都市概念の変化を整理した。明代以降、「市に隠居」の概念の影響を受けて、本来の「隠者文化」における田舎と都市の間に対立的な枠組みは崩壊した。空間からいうと、「隠居」の物質的担い手である都市の私有庭園は、都市空間の反対面から都市空間の一部へと変貌を遂げていた。これに基づいて、形態解析とスペースシンタックス理論などの研究方法を通じて、「市に隠居」の概念の影響下にある都市の私有庭園の空間分布を、場所と構造の2つのレベルから分析した。

結果では、伝統的な「隠者文化」とは異なり、都市空間の意味で、「市に隠居」の概念における「隠し」と都市の私有庭園の位置分布とは関係なく、「隠し」はより多く構造レベルに反映されている。ということが分かった。したがって、「市に隠居」の概念の影響下で、私有庭園と都市空間との関係の議論は、中規模およびマイクロレベル（通り、ブロック）での構造的議論にさらに焦点を当てるべきだと考えられる。これに基づいて、都市の私有庭園の位置の議論において、将来の研究は、都市要素の影響や地域的な構造などの都市のマイクロレベルの構造問題にさらに焦点を当てる。



2.4 三遠の視点から京都の庭園を分析した

京都にある39の庭園を例として、量的統計と類型分析法を用いて、異なるレイアウトの庭園の類似した要素によって構築された構造タイプを明らかにした。これに基づいて、時間的次元を導入し、根底にある構造変化の特徴を考察した。



3. 共同研究者

古谷 誠章（創造理工学部・建築科・教授） 藤井 由理（創造理工学部・建築科・教授）
王 薪鵬（創造理工学部・建築科・講師） 王 欣（中国美術学院・建築科・準教授）
尼崎 博正（京都芸術大学・日本庭園歴史遺産研究センター名誉教授）

4. 研究業績

4.1 学術論文

L. Chen, **K. Fang**, X. Wang, G. Zhu, Z. Zhang, N. Furuya, The spatial feature and use pattern of external space in Chongqing traditional urban settlement, *Journal of Asian Architecture and Building Engineering* (2021).

Z. Zhang, X. Wang, G. Zhu, W. Zhang, L. Chen, **K. Fang**, N. Furuya, A micro-scale study on the spontaneous spatial improvement of in-between spaces in Chinese traditional districts considering the relationship between modifications and encroachment, *Journal of Asian Architecture and Building Engineering* (2022).

4.2 総説・著書

4.3 招待講演

4.4 受賞・表彰

4.5 学会および社会的活動

5. 研究活動の課題と展望

日本と中国の庭園の構造の特徴を全体的に把握するために、両国の庭園に対して広く全般的な調査を行うべきだと考えられる。